

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

先生の笑顔は

子供達の心の栄養

四月二十六日(金)に新任講師等研修を実施しました。毎年、本研修で生徒指導の講義・演習をしています。この日は私に初心を思い出させてくれます。私も数十年前の四月、学生から「先生」となり、うれしい反面、何もかもが手探り状態で不安と失敗の中、必死に毎日を過ごしていました。本研修の生徒指導の講義・演習は「服務」の説明の後ということで、皆さんが緊張感に満ちた表情を浮かべています。私が力を入れているのはアイズブレイクです(もちろん講義・演習も力が入っています)。先生方が楽しそうにゲームに取り組んでいる姿を見ると『いいな』と幸福を感じます。学校は子供達が行きたいと

四月二十六日(金)に新任講師等研修を実施しました。毎年、本研修で生徒指導の講義・演習をしています。この日は私に初心を思い出させてくれます。私も数十年前の四月、学生から「先生」となり、うれしい反面、何もかもが手探り状態で不安と失敗の中、必死に毎日を過ごしていました。本研修の生徒指導の講義・演習は「服務」の説明の後ということで、皆さんが緊張感に満ちた表情を浮かべています。私が力を入れているのはアイズブレイクです(もちろん講義・演習も力が入っています)。先生方が楽しそうにゲームに取り組んでいる姿を見ると『いいな』と幸福を感じます。学校は子供達が行きたいと

見える楽しい所です。それは先生にとっても同じだと思えます。授業、学校行事、休み時間に先生が笑顔の学校・学級は、子供達に活気があり幸福感到満ちています。一部の報道で学校に関する暗い話題があり、周囲の知り合いは「先生って大変でしょう」と心配の声をかけてくれます。私は「それはどの職業も同じでしょう?」と答えています。本心は「こんな楽しくやりがいのある職業ってないよ。ごめんね。」です。

「子供は大人を映す鏡」とよく言われます。子供にとって周囲の大人は一番身近な「環境」であり、『見本』でもあります。だからといって大人が「失敗は見せられない」と意気込む必要はないです。失敗は誰にでもあり、その中から次の目標を前向きに見つけようとする姿を先生自身が

見れば、子供達はきつと勇気づけられます。一学期、各小中学校を訪問させていただき、先生方が支えあって各活動に取り組み、子供達と笑顔で過ごしているのを見て頂きました。先生方の笑顔が子供にとって一番の心の栄養になっていると感じました。(文責 新谷)

「すべての」という視座

障がいのある人のために「福祉タクシー」という制度がある。四十年前、制度の実現に努力したタクシー運転手さんたちの話を聞く機会があった。「誰でもお金さえ払えば、いつでも行きたいところまでいけるのが、タクシーである。その『誰でも』の中には、障がいのある人たちも当然含まれる。『タクシーとは何か』という仕事の本分を追究していくと、福祉タクシーは、私たちの仕事の在り方を問う問題であることがわかってきた。」と語っていた。

「福祉タクシー」を「特別支援教育」に置き換えてみよう。私たち教員の仕事の本分が「どの子にも学ぶ喜びを」「すべての子どもにわかる喜びを」ということであるならば、その「どの子」の中には、「障がいのある子」「支援を必要とする子」も当然含まれる。「教育とはなにか」「教師とはなにか」という根源的な問いかけを大事にしていけば、「特別支援教育」は、一人一人の教師にとって必然の課題になってくる。

隠岐圏域では、四町村の連携のもと、各町村で相談支援チームが機能し始めている。このシステムを隠岐の島町職員の間で作ってきた長田寿幸氏はこう語る。「特別支援教育に関わると、人の見方が深くなってくる。その人の内面にある喜びや悩みや困難さに思いを寄せて、同僚や町民と向き合うようになった。すべての子どもへの学びについて考えるようになってきた。・・・」と。

制度の前進には、こうした個人の自己変革が必ず内包されていく。個人の内面にある喜びや悩みや困難さに思いを寄せて、同僚や町民と向き合うようになった。すべての子どもへの学びについて考えるようになってきた。・・・」と。

制度の前進には、こうした個人の自己変革が必ず内包されていく。個人の内面にある喜びや悩みや困難さに思いを寄せて、同僚や町民と向き合うようになった。すべての子どもへの学びについて考えるようになってきた。・・・」と。

社会教育委員 連絡協議会

六月二十五日(火) 隠岐の島町教育委員会において、隠岐地区社会教育委員連絡協議会が行われました。本協議会は平成二十五年度に発足し、二年間の輪番制で各町村教育委員会が事務局を勤めています。初代海士町からスタートし、知夫村、西ノ島町を経て今年度から、隠岐の島町教育委員会が事務局となりました。

本会は、社会教育委員の活動を活性化するためには研修が不可欠という認識のもと二種類の研修を行うことになっています。一つは、社会教育委員の役割を認識し、各町村

の社会教育推進の役割を担うことができるように、委員の役割や社会教育の現状を学ぶ「基礎講座」、もう一つは、地域の課題を考え対応するための「地域課題講座」で、それぞれ年一回ずつ行っています。今回は、総会に合わせ、「基礎講座」も行われ、島根県教育庁社会教育課の横田輝昭サブリダーに、「社会教育委員の基礎・基本」社会教育委員としてできることというテーマで講話をいただきました。知夫村で派遣社会教育主事をされておられた横田さんからは、ご自身のご経験をもとに、法に示されている職務と役割を確認しつつ、実際にどのような行動が委員としてできるのかを分かりやすく説明していただき、社会教育委員が社会教育行政に住民の意向を反映させる仕組みとして設けられていることを再確認できたとともに、委員と行政職員のネットワークができる場となりました。(文責 吉山)

の社会教育推進の役割を担うことができるように、委員の役割や社会教育の現状を学ぶ「基礎講座」、もう一つは、地域の課題を考え対応するための「地域課題講座」で、それぞれ年一回ずつ行っています。今回は、総会に合わせ、「基礎講座」も行われ、島根県教育庁社会教育課の横田輝昭サブリダーに、「社会教育委員の基礎・基本」社会教育委員としてできることというテーマで講話をいただきました。知夫村で派遣社会教育主事をされておられた横田さんからは、ご自身のご経験をもとに、法に示されている職務と役割を確認しつつ、実際にどのような行動が委員としてできるのかを分かりやすく説明していただき、社会教育委員が社会教育行政に住民の意向を反映させる仕組みとして設けられていることを再確認できたとともに、委員と行政職員のネットワークができる場となりました。(文責 吉山)